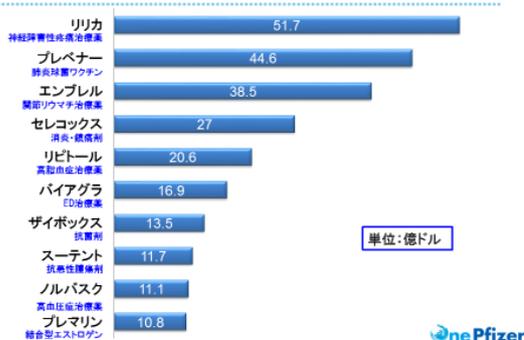


2014年度ファイザー社事業概況—ファイザー日本法人社長 梅田一郎氏



全世界におけるファイザー社の2014年度トップセール10製品は、神経障害性疼痛治療薬「リリカ」、肺炎球菌ワクチン「プレベナー」、関節リウマチ治療薬「エンブレル」、消炎・鎮痛剤「セレコックス」、高脂血症治療薬「リピトール」、ED治療薬「バイアグラ」、抗菌剤「ザイボックス」、抗悪性腫瘍剤「スーテント」、高血圧治療薬「ノルバスク」、結合型エストロゲン「プレマリン」の順でした<[以下のスライド参照](#)>。

2014年度トップ10製品(全世界)



なお、世界市場売り上げトップの座は、ノバルティス社に明けわたし、2位にあまんじたものの、シェアで見ると僅かに0.6%の差でした<[以下のスライド参照](#)>。

世界の売上高トップ10

(医療用医薬品、2013年12月～2014年11月累計)

順位	会社名	売上(百万円)	シェア(%)	伸長率(%)
	市場TOTAL	794,703	100.0	8.8
1	ノバルティス	45,304	5.7	3.3
2	ファイザー	40,638	5.1	3.3
3	サノフィ	34,256	4.3	8.4
4	ロシュ	33,863	4.3	4.5
5	メルク	33,713	4.2	3.6
6	アストラゼネカ	31,344	3.9	4.8
7	ジョンソン&ジョンソン	29,807	3.8	24.2
8	GSK	27,854	3.5	0.3
9	テバ	23,961	3.0	8.0
10	ギリアド	21,802	2.7	102.5

Source: IMS



研究開発費の推移を見ると、ファイザー社は、2010年には世界の全分野の企業を含めてNo.1の開発費を誇っていました。しかし2014年でみると自動車産業、電気関連産業、IT関連事業が急伸して上位を占め、ファイザーは第15位にランクされました。

2014年度の日本法人の業績は、年商5,020億円であり、前年と比較して5%のマイナス成長、これは薬価改定の影響によるものです。2012年以來の減収となりましたが、リリカ、トビエース、インライタ、ザーコリなどの主力製品は堅調な推移を示しており、ファイザージェネリックも堅調な推移を示しているとの見解でした<以下のスライド参照>。



2014年度 日本法人の業績

(2013年12月~2014年11月)

	2013年度	2014年度	伸長率
売上高	5,307億円	5,020億円	-5%

- 薬価改定の影響により2012年以來の減収
- リリカ、トビエース、インライタ、ザーコリなど主力製品の堅調な推移
- ファイザーブランド後発医薬品の堅調な推移



この売上を販促ベースで見ると、昨年同様1位を堅持しています。卸の販売レベルでも5位であることから、当面この地位を維持していくとのことでした<以下のスライド参照>。



日本の売上ランキング

(2013年12月~2014年11月 薬価ベース 販促)

	会社	売上(百万円)	シェア	伸長率
	市場TOTAL	9,930,131	100.0%	1.3%
1	ファイザー	606,285	6.1%	3.0%
2	武田	529,521	5.3%	-1.4%
3	第一三共	472,672	4.8%	-1.5%
4	中外	434,625	4.4%	8.9%
5	MSD	376,941	3.8%	-6.3%
6	ノバルティス	361,769	3.6%	-7.3%
7	田辺三菱	351,051	3.5%	-5.4%
8	アストラゼネカ	309,837	3.1%	3.9%
9	サノフィ	294,872	3.0%	-7.7%
10	GSK	283,562	2.9%	-0.1%

Source: IMS-Japan



また、ファイザーの強みは、2010年から日本で施行された新薬創出加算品目数ランキングで30成分55品目と第1位であること<以下のスライド参照>に加え、2008年から2014年までの間の承認取得数も第1位であることが製薬企業としての強みであるとのことでした。



新薬創出加算品目数ランキング

- 2014年度薬価改定 -

ランク	会社	成分数	品目数
1	ファイザー	30	55
2	GSK	24	47
3	ノバルティス	19	36
4	ヤンセン	17	35
4	中外製薬	15	35
6	MSD	20	34
7	アストラゼネカ	11	26
8	アステラス製薬	11	25
8	第一三共	12	25
8	イーライリリー	7	25



日本法人の中長期の経営方針/事業戦略として、東大とグローバルファイザーとの創薬共同研究の契約を昨年10月締結し、日本発の革新的な医薬品がいち早く開発されることに貢献するとのことでした。

その他に、コンプライアンス、社会貢献活動さらには多様性を会社の力に最大限活用するために女性役員・ライン管理職比率の推進継続および2015年のテーマとして **Owing a Growth Mindset**（既成概念を打破し、熱意と勇気でビジネスを切り開こう）を強力に推進していくとのことでした。

以上